

グリーンサークル 39号

クローズアップ
活動団体紹介

多摩しみどりのかわら版

伊藤 英行
どんぐり山を守る会
豊ヶ丘小学校林・活動再生プロジェクト
米山 由起子



コヒルガオ

～クローズアップ～

無理せず、楽しく仕事。

お世話になった方には、終生、批判をしないのが、私の主義です。

恵泉女学園大学 伊藤 英行

皆さん、こんにちは、恵泉女学園大学のパート職員の伊藤です。私は、多摩市役所退職後再任用制度で、3年間は他の場所で勤務し残り2年間の市の職員として、グリーンライブセンター（以下GLCと表示）にお世話になり、その後大学のパート職員としてGLCで今も楽しく仕事をしております。

GLCに来て知り合った方から、「GLCには希望して着任したのか」と聞かれましたが、私は希望してきたわけではありません。でも来て暫くすると、とっても気に入りました。そしてその気持ちは、今になっても一切変わりません。

まずは、GLCの「季節の変化」です。ここに来て自分を取り巻く風景が、確かに変わりました。それは四季折々に咲く草花が、ページをめくるようにはっきりと季節の変化を感じさせてくれることです。人の気持ちとは可愛いもので、どうしようもなく些細な日常に左右される一方で、春風の感触や初夏の草花の生立ちで、こんなにも「豊かな気持ち」になれるのですから、人の心は深くて、不思議なくらい浅いのかもかもしれません。自分はこの浅さが大好きです。いつまでもこの「豊かな気持ち」を味わいたいと思っています。

つぎに、GLCの「みどり」についてです。みどりは、人の心が安らぎます。その中でも5月のバラの時期は、あでやかでそこにただで、喜びと何とも言えない優越感を感じます。白い花びらが降り注ぐスタンダードづくりのバラや道行く人が足を止める可憐なアーチなど、この時期に水あげの作業をしているだけで充実感が広がります。私が、一番好きなバラは、と言ったら、ニコロ・パガニーニの赤いバラやアイスバーグの白いバラもいいけど、自分は入り口に広がる

「ピエール・ドゥ・ロンサール」が好きです。花びらは、大輪でまわりは白、中心付近が薄い



いつも植物と楽しく会話しているようです

ピンクのツートンです。この薄ピンクの色が、19世紀の画家ルノアールが好んで描いたふっくらした女の子のはだのようです。自分は、このバラを見るたびに、19世紀のパリに出かけたい気分になります。

それからGLCの「人」についてです。GLCと一緒に仕事している市の職員の方またグリーンボランティア連絡会の職員の皆さんは、とても清々しく熱心です。またこんな優秀な人材がなぜここにいるのかと思うほどの方もいます。そうそう女性の方々は、皆さん魅力的です。その中で、自分が特に印象がある方々は、ボランティアのおじさん方です。皆さん自分より年上のようなのですが、すがすがしく、哲学的ですすでに現役を退いていることもあり、どこか浮世離れしているように見受けられます。そしておじさん方は、GLCの仕事が大好きで、園内では、バラの剪定、温室の管理、剪定枝の整理など、園外では竹の伐採や里山の管理などをおこない、仕事ぶりは定かには分かりませんが、ちょっときつい冗談でもいいながら楽しく行っているみたいです。全く頼もしい限りです。自分も近いうちに仲間に入れてください。立川の先の昭島からとぼとぼと参加します。よろしくお祈りします。

つぎにせっかくの機会ですので、自分の社会人としての「モットー」を自己紹介します。自分は、市の職員として、そのあと大学のパート職員として仕事をしてきましたが、その時の気持ちとしては、正直そんなに変わりません。「無理」をせず「楽しく」「みんな」と「活動」し、そして付き合ってくれた方への敬意をこめて、お世話になった人、団体には、終生、批判をしないと決めております。そのことは、生意気のようなのですが、いままでの人生経験から得た教訓のようなもので、今を楽しく過ごす「仁義」と思っています。そのことを頭において日々の仕事をしているわけですが、最近のパソコンに代表されるテクノロジーの進歩には、お手上げ状態です。誰か助けてください。

最後にこれからのGLCのことを話題にします。GLCの運営は、ご案内のとおり「多摩市」「多摩市グリーンボランティア連絡会」と「恵泉女学園大学」の三者で運営しています。近々の大規模改修にむけてハード、ソフトの両面で

それぞれ意見を持ち合い熱心な議論が進められています。そのこと自体は大変すばらしいシステムで、その熱心さは、リニューアル後の運営にも良い影響をもたらすと考えます。しかし、ここでのコロナウイルスの感染により、各団体に大きな変化をもたらしていると思います。たとえば従来実施していたイベントや講座は、(室内は特に)今までどおりの方法では、三密防止の観点から実施できないと思われまます。また日常管理の点では、従来の持ち込み飲食の許容やオーガニックカフェの開始なども、いつになるか不明の状況です。これらのことを今後、近々の大規模改修の対応も含めて、ウィズコロナの時代をどう乗り切るか三者

で納得できる形で議論する必要がある、もともとの形を変化させ新しい形を作り上げないと、済まない時期と思いません。

みなさん、自分は、GLC に仕事に来るたびに思います。このような仕事のわずらわしさを忘れて、一日 15 分でも GLC に居る自分と、草花やそよぐ風のかおりを楽しみ、五感の中にその風景を残していきたいと思っています。そんなことを感じさせる場所が GLC です。いつの日か、将来の子供たちにもこのフィーリングを感じる時がくることを夢見て、青年(老年)の主張を終了します。

～活動団体紹介～

どんぐり山を守る会

どんぐり山を守る会 田中 範子

どんぐり山の手入れに係わってから 33 年になりました。常緑樹の多かった落合第 5 児童公園(どんぐり山)を、多摩の昔の里山にしていこうと、故内城道興氏の発案で落葉樹(コナラ、クヌギ、エノキ)を 200 本強植え、手入れをしてきました。

今では、芽吹き、紅葉、雪化粧と四季折々に楽しめる里山になってきたように思います。

☆一年の仕事内容

- 冬 山作業の一年の安全祈願
萌芽更新のため伐採、ホダギ作り、
落ち葉掃除
- 春 植物の観察、調査、シイタケ菌のコマ打ち
- 夏 下草刈り、常緑樹の枝打ち、枯れ木の処理
- 秋 下草刈り、原木の本伏せ

以上がどんぐり山、みどりの川の 33 年間続いている活動内容です。

☆33 年間で変わったこと

1. どんぐり山で出た材は、どんぐり山で処理しようという主旨で、砂場で炭焼きを 10 年間しましたができなくなったこと。
2. 落ち葉で堆肥を作り、小学校に利用してもらいましたが、需要が無くなったこと。



10 年ほど前に萌芽更新したクヌギ

3. 手作業だった仕事が機械(チェーンソー、刈払機等)を利用することで効率が上がったこと。
(下草刈り、伐採等)。
4. 太くなり過ぎた樹を、市に伐採依頼するようになったこと。
5. 安全対策がしっかりしてきて各人が安全面に意識を持ち始めたこと。

一番大きな問題は、メンバーが増えず高齢化が著しくなり作業量が減少してきたこと。

若手の男性のメンバーが増えないこと。

どんぐり山に隣接して建売住宅が出来、環境が変わってきたこと。

以上が特に気付いたことです。

最近、私が 10 年程前に萌芽更新のため伐採したクヌギが、太陽に向かって真っすぐ伸びているのを見て、これが里山の手入れだと改めて感じました。

又、今年はコロナで作業活動に制限されて、山が騒々しくみえます。下草刈

り、樹の手入れがいかに大事か、わかる年になりそうです。

最後に、このままメンバーの老齢化が進みメンバーが少なくなっていってどうなってしまうか……。とても心配です。早く若い人に入ってきていただきたいと切に切に思います。



大きくなりました

～活動団体紹介～

豊ヶ丘小学校校林 活用・再生プロジェクト委員会

多摩市立豊ヶ丘小学校 地域学校協働活動推進委員 若月 寛子

豊ヶ丘小の学校林は、東京都で最大の面積をもち、子ども達が「100 年後も残していきたい」豊小の宝物としてその良さを伝え、学校・PTA・地域の方々の協力のもと維持されています。

多摩市は緑豊かな街ですが、授業や学校生活の中に学校林がある豊小はとても恵まれていると感じます。

☆活用・再生プロジェクト委員会の意義

子ども達の学校林を維持していくにあたり、学校林活用・再生プロジェクト委員会は、毎年 10 年後、20 年後の長期プランを確認し、今年はどうのように自然の林を手入れし保存していくかを話し合い、その年の活動の方向性を決め、どう子ども達が関わっていくのか学校とも確認しながら作業計画を立て、子ども達の活動のサポートに活かしています。

専門家の方にお話を聞くのは学ぶことが多く、楽しい時間でもあります。実際にプロジェクト委員として参加させてもらう中で、整備作業においても、子ども達をサポートする総合的な学習の時間においても、何のための学校林か、公園とは異なり、自然の中での体験を通して人間も自然の一部だと気づかせてくれる学校林であるという支援者側の共通認識の大切さに気が付きました。

☆子ども達の活動

豊小では、低学年から学校林を散策し、草花や虫を愛で、自然と親しんでいます。PTA の設置しているアスレチック遊具で遊んだり、PTA 図書ボランティアの方に年に 1 度学校林の中で読み聞かせをクラスごとにしてもらったりしています。休み時間には学校林委員会の学校林開放等、学校林でいきいきと活動しています。その下地のもと、高学年の総合の学習では、学校



みんなで一緒に守っていきます



学校林の手入れ(下草刈り)

林において自ら興味関心のあるテーマや課題で班を作り、自分たちで何ができるか考え、1 年間活動していきます。

春先に担任の先生方とどのような活動ができるか、どのような形でサポートしていくのか話し合いますが、自ら関心をもち、学校林に関わっていくうちに、子ども達はどんどん、たくましく主体的に行動するようになります。

エコプロダクツや 2 月に行われるとよば一くで、他学年や地域の方に向けて交流&発表の場があることも子ども達の意欲を高めています。そして学校林に対する思いや愛着も高まるように感じます。

毎年、国土舘大学の協力で行っている豊ヶ丘自然学校では、希望した参加者が学校林にブルーシートで秘密基地を作り、寝泊まりするという貴重な体験をすることもできます。

☆PTA・地域との関わり

年に 7 回程度、土曜日を中心に学校林整備作業を行っています。主な作業は枝払いや下草刈り、枝打ちですが、伐採も行ったりします。先生方もよく参加してください。

また、学校林ボランティアの方と共催し、PTA や地域ボランティアの方に向け、银杏拾いやヒンメリ作り、リースづくりなど学校林の恵みを大人の方にも味わってもらい、学校林に関心をもち、学校林整備に一人でも多くの方が参加してもらうために活動もしています。

☆今後の展望

子ども達だけでなく、卒業生、保護者、地域の方といった沢山の方が豊ヶ丘小学校林の良さを感じ、愛され続ける場として存続してほしいです。

また、学校林での活動を通して身近な自然を大切に、そのために自分は何ができるかを考え、できることから実現していこうとする下地が形成される場として学校林があり続けてほしいと思います。

～多摩市みどりのかわら版～

コロナ渦での公園通いと私の好きな公園

多摩市環境部 公園緑地課 みどり担当 米山 由起子

令和 2 年 6 月から公園緑地課に復帰しました米山と申します。平成 29 年の年末から産休・育休を頂き、2 年半ぶりに職場に通う生活をしております。グリーンボランティア、グリーンライブセンター、公園緑地課の皆様とはお久しぶりなので、それぞれの元気なお顔がみられて、嬉しく思いました。

今年は、新型コロナウイルスの流行で、当初は 4 月末からの仕事復帰の予定でしたが、緊急事態宣言後は、保育園に登園自粛要請が出された関係などで、復帰が遅れ 6 月半ばからの勤務となり、ご迷惑をおかけしました。

緊急事態宣言中は、もう小学生になった子どもも含め、1 日中子供たちと一緒に過ごすというのが初めての経験でしたので、どのように一日を過ごすか、毎日頭を悩ませていました。しかし、公園は 3 密にならないで過ごせる唯一の(?) 遊び場でしたので、ほぼ毎日近所の公園や、たまには多摩市の公園にも(ダジャレになってしまいました)、遊びに行っていました。



たのしかったね!

多摩中央公園や一本杉公園などに行きましたが、遊具でも混み合わないように、少し距離をとって、ほかのお友達ともお話ししない様に、気を付けてもらいました。



一本杉公園 石のオブジェ

中央公園は、なんとといっても広く、芝生が広々としているので、そんな公園を歩いていると、コロナ渦でのストレスがスーッと発散されるように思いました。

一本杉公園も、球戯場やテニスコート、じゃぶじゃぶ池のある大きな公園ですが、春先は水を張らず、でこぼこした石の水底があらわになっていて、起伏があるのでジャンプしたり、ごっこ遊びをしたり、子ども達も楽しい様子でした。一本杉公園のとりにコッペパン専門のパン屋さんがあるのですが、こちらもとても美味しかったです。(家に持ち帰り、頂きました。)

本年度は、新型コロナウイルスへの対策により、グリーンライブセンターでの講座なども中止となるもの多く、職員としても心苦しい状況ですが、安全にマスクをせずに出かけられるようになるまでの辛抱と思い、職員としても、一市民としても、多摩市の公園のみどりを見守っていきたいと思います。

表紙の絵

「コヒルガオ」絵・内城葉子

ヒルガオと間違われますが、葉の形が三角形で、茎にヒレ(翼)があるのが特徴で、最近ではヒルガオより多く見られます。

<プロフィール> 1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショー Gold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

編集後記

今年の夏はコロナ禍に加え、長梅雨の後の信じられない猛暑となりました。そして夏休みは例年の約半分。さすがに子供も大人も本当に信じられない夏です。子育て中の私も、夜になれば子供たちにイライライラ(笑)

今年は夜になっても全く涼しくならず、仕方ないと思いつつも、ふと気づくと夜になってもセミが鳴きやまず、アブラゼミの大合唱。そう言えば昔は静かだったと思い、調べてみました。

やはりセミは夜あまり鳴かないのだそうですが、気温が高く、明るい場所なら昼と勘違いし、夜でも鳴くのだそうです。そして、勘違いが多いのはアブラゼミ。夜はあまりカリカリせず、早く電気を消して休むほうが、セミにもヒトにも優しいのかもしれませんね。(まっ)

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 39 号

発行日：2020 年 8 月 20 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合 2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tg1c/>